

歿後60年 師・劉生、そして家族とともに

*Life as Painter:
The Art of Tsubaki Tatsuo and his Family, and Mentor, Kishida Ryunosuke*

椿貞雄

2017年6月7日(水)～7月30日(日)

開館時間＝10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで)。※入場受付は閉館の30分前まで

休館日＝7月3日(月)

観覧料＝一般 1,200円(960円)、大学生 700円(560円) ※小・中学生、高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料
※()内は前売り、団体20名以上、および市内在住65歳以上の方の料金 ※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ(5月28日まで)、
およびローソンチケット(Lコード:34280)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」
「千城台駅」の窓口(7月30日まで)にて販売。

主催＝千葉市美術館

出品協力＝東京国立近代美術館

千葉市美術館

Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

Tel.043-221-2311(代) <http://www.cema-net.jp>

椿貞雄(自画像)1915(大正4)年1月9日 千葉県立美術館蔵

山形県米沢市に生まれた椿貞雄(1896-1957)は、早逝した長兄の影響により画家を志すようになります。1914(大正3)年に上京した椿は岸田劉生(1891-1929)の個展を見て彼に会うことを決意しました。翌15年、劉生に迎えられた椿は草土社の結成に参加します。また彼は思想的には武者小路實篤や長與善郎たちの人道主義の感化を受け、『白樺』に育まれた芸術家として成長していきました。

椿は美術学校などで正式な絵画技法を習得しないまま、画家となりました。劉生も白馬会葵橋洋画研究所で指導を受けた以外は独学でしたが、椿と出会った当時、独自の思索によって明治期以来の油彩画のなかで際立って濃密な絵画世界を作り上げようとしていました。椿は文字通りそのかわらで絵画の制作を学びました。

椿の画業は1920年頃より始まった劉生の東洋的写実に対する関心に従って変化し、やがて文人画(墨彩画)の制作も行ようになります。29年、椿は劉生の死によって制作に行き詰まるほどの状態になりますが、劉生が構想した日本における油彩画表現を受け継ぎ、独自の画境に到達しました。その世界は、東洋絵画の伝統を踏まえながらも近代日本の市民生活に根ざしたおだやかさに特徴が見られます。

椿は1927(昭和2)年から亡くなるまで船橋市に住み、制作活動を続けました。没後60年を迎え、彼が暮らした房総の地で開催される本展では、本人の作品だけではなく、彼の画業を考える上で欠かせない岸田劉生の作品、そして51年から父と同じ国会画に出品した次女の椿夏子(1926-2004)の型絵染による作品を紹介し、市井に生きた日本人が見つめた世界を回顧します。

※会期中、一部展示替えを行います。



椿貞雄《髪すき回》1931(昭和6)年 東京国立近代美術館蔵



椿貞雄《冬瓜南瓜図》1946-47(昭和21-22)年 鳥根県立石見美術館蔵



岸田劉生《芝川照吉氏之像》1919(大正8)年7月10日 京都国立近代美術館蔵



岸田劉生《物をひく童女》1924(大正13)年 ボーラ美術館蔵

記念講演会

「愛情の画家 椿貞雄」

【講師】花田美穂(伝国の社 米沢市上杉博物館 学芸主査)

6月17日(土)14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて/聴講無料/先着150名(当日12:00より11階にて整理券配布)

市民美術講座

「岸田劉生は何を描きたかったのか」

【講師】菓科英也(当館上席学芸員)

6月24日(土)14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて/聴講無料/先着150名

「椿貞雄は何を描いたか」

【講師】菓科英也(当館上席学芸員)

7月15日(土)14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて/聴講無料/先着150名

ワークショップ

「描くように染める」(事前申込制)

専用の紙を切り抜いてオリジナルデザインの型を作り、トートバッグを染色します。

7月2日(日)13:30~16:30(13:20開場予定)

11階講堂にて/参加費:700円(材料費込み)/定員15名/対象:中学生以上

【申込方法】往復はがきまたはホームページからお申込みください。

往復はがきの場合は、郵便番号・住所・電話番号(当日連絡可能なもの)・氏名・年齢・参加希望のイベント名・参加人数(2名まで)を明記の上、〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館イベント係 まで。

締切:6月21日(水)必着 *応募多数の場合は抽選

ギャラリートーク

担当学芸員による 6月7日(水) 14:00~

ボランティアスタッフによる 会期中の毎週水曜日(6月7日を除く)

※水曜日以外の平日の14:00にも開催することがあります。

※混雑時には中止する場合があります。

【同時開催】

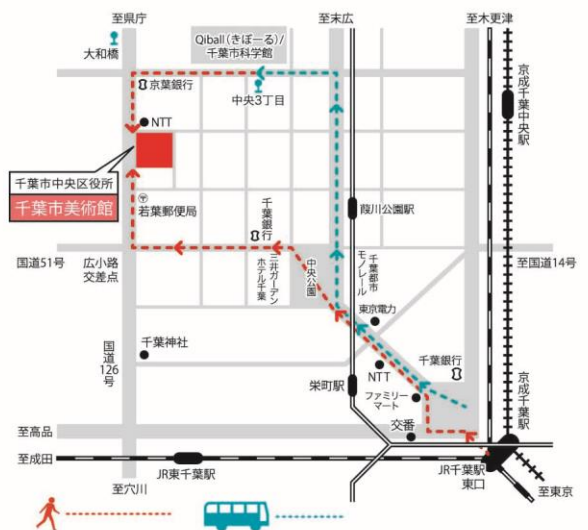
所蔵作品展「椿貞雄をめぐって—千葉ゆかりの美術」

※「没後60年 椿貞雄」展をご観覧の方は無料

【次回展予告】

「CCMAコレクション いま/むかし うらがわ」

2017年8月5日(土)~8月27日(日)



【交通案内】

■JR千葉駅東口より徒歩約15分/バスのりばより大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分/バスのりば⑩C-busにて「中央区役所・千葉市美術館前」下車/千葉都市モノレール県庁前方面行「葦川公園駅」下車徒歩約5分

■京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

■東京方面から車では、京葉道路・東関東自動車道で野宮木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く

※千葉市中央区役所と同じ建物です。

※地下に、区役所と共用の機械式駐車場がありますが混雑時はご不便をおかけすることもありますので、公共交通機関のご来館をお願いします。

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8
Tel.043-221-2311(代)
http://www.ccma-net.jp